

編集後記

近年、国や地方自治体において、政策評価を測る一つの指標としてウェルビーイングの観点を取り入れられつつあることは、本誌にご寄稿いただいた皆様に論じていただいた通りです。

本市においては、令和10年度からスタートする第5次総合計画の策定に向けて、ウェルビーイングの観点に注目し検討を始めたところです。現在の第4次総合計画後期基本計画では、市の施策に対する市民の満足度やニーズを把握するため「市民意識調査」を実施しながら計画の進行を管理していますが、行政サービスにより市民の幸福感が上がっているのかは把握できておりません。また、昨年9月に公表した2025経営戦略方針では、その進捗を管理する指標の一つとして満足度・幸福度を設定したところであり、幸福度を測る具体的なKPIを設定することが急務となっています。

このような状況から、今年度は「くらしの豊かさ実感に関するアンケート」を実施し、市民の幸福度を調査いたしました。価値観が多様化する現代社会において、「幸せ」とそれを支える「豊かさ」も多元的なものとなり、経済的豊かさと市民の感じるウェルビーイングの間にギャップが存在するといわれる中で、市民の「くらしの豊かさ」を継続的に把握するための第一歩として本誌のトピックスに研究結果をまとめたものです。

研究報告「豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究Ⅱ」については、調査研究も2年目となり、家庭の社会経済的背景の不利を克服するレジリエンスの条件をさらに深掘りするとともに、行政データと児童生徒・保護者アンケートを個人単位で接続したパネルデータを使い、児童生徒の2年間の変化を分析いたしました。この結果は本市が掲げる「子育てしやすさNO.1」プロジェクトをはじめとする各種施策を推進する際の基礎データとして活用しております。3か年計画でスタートした本研究の1年目の成果は、公益財団法人日本都市センター主催の第15回都市調査研究グランプリで最優秀賞を受賞させていただきました。あらためてアドバイザーとしてご助言いただきました皆様にお礼申し上げます。

とよなか都市創造研究所は、各分野の専門家のアドバイスを受けながら、事業部局だけでは解決が難しい行政課題の中長期的な展望について、事業部局と協力しながら研究を進め、事業推進の一助となるよう、自治体シンクタンクに求められる役割を追求しています。

今年度の機関誌発行におきましては、寄稿していただきました皆様、アドバイザーとしてご助言くださいました皆様に、多大なご協力、ご助言いただきましたこと、誌面をお借りいたしまして、厚くお礼申し上げます。

また、本機関誌が、本市だけでなく、基礎自治体をはじめとした各種団体の職員の皆様、読者の皆様の参考になれば幸いです。

豊中市都市経営部とよなか都市創造研究所

所長 森田 宏人